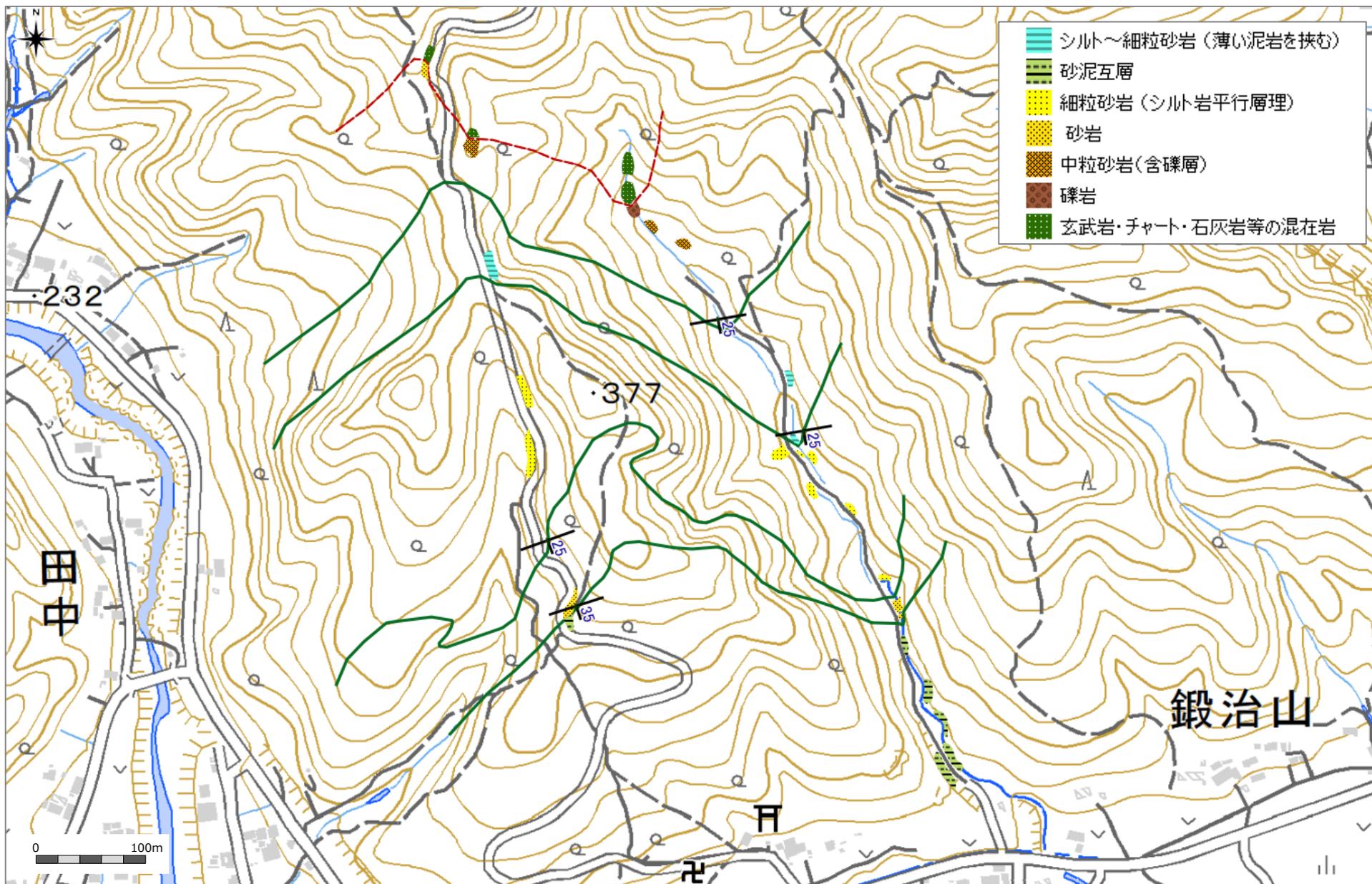


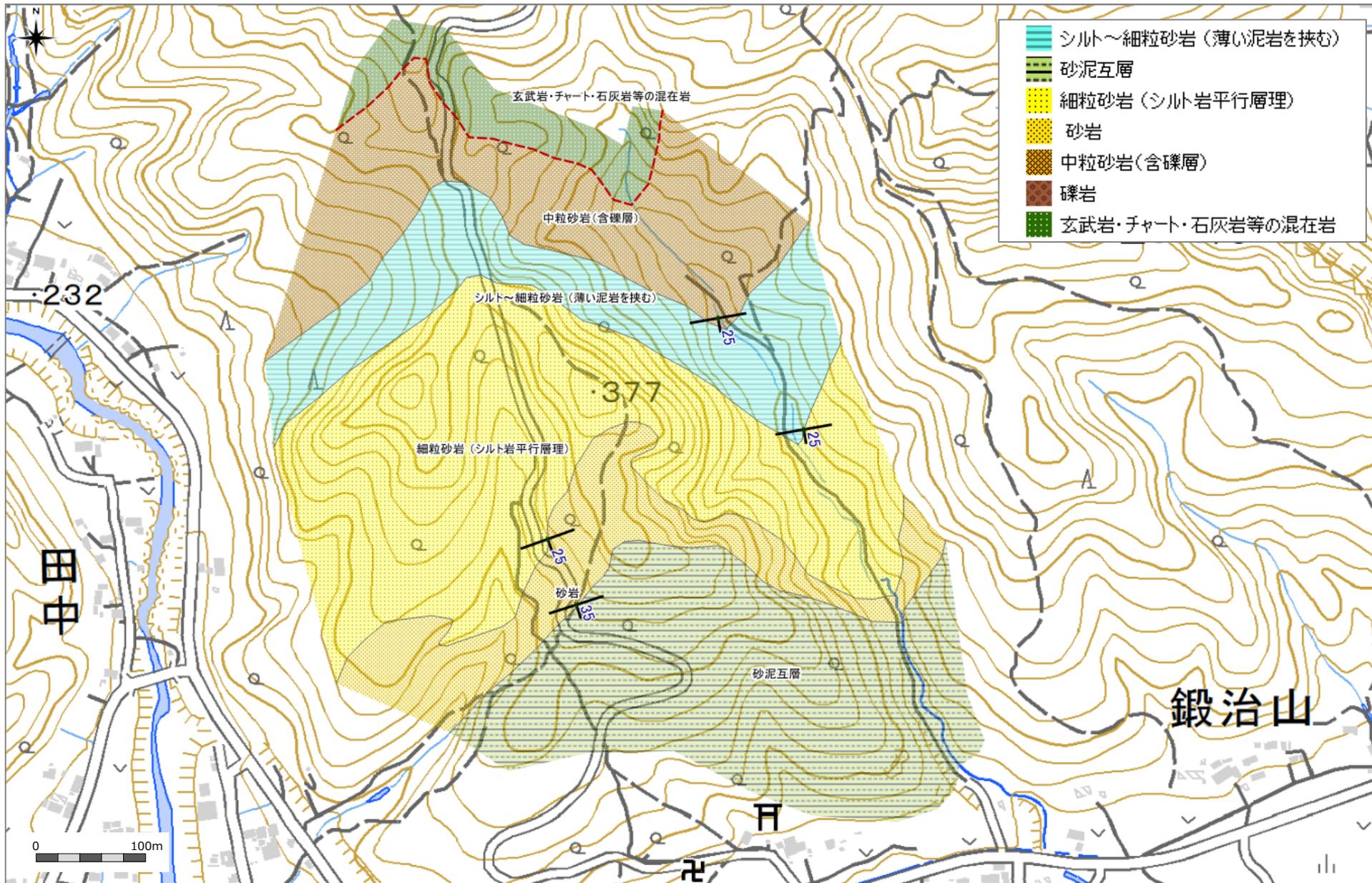
# 境界線作図例

解答例

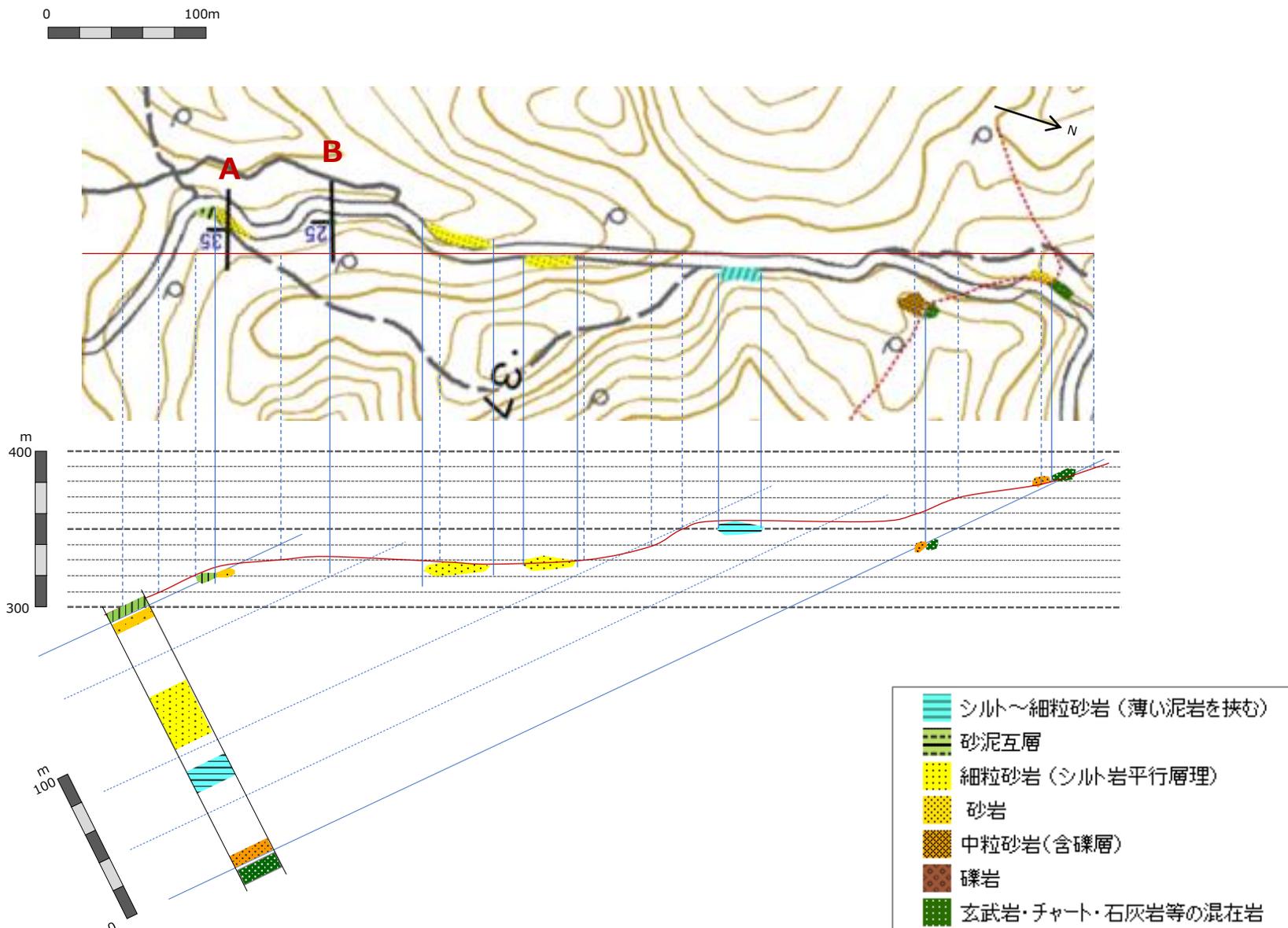


# 完成した地質図

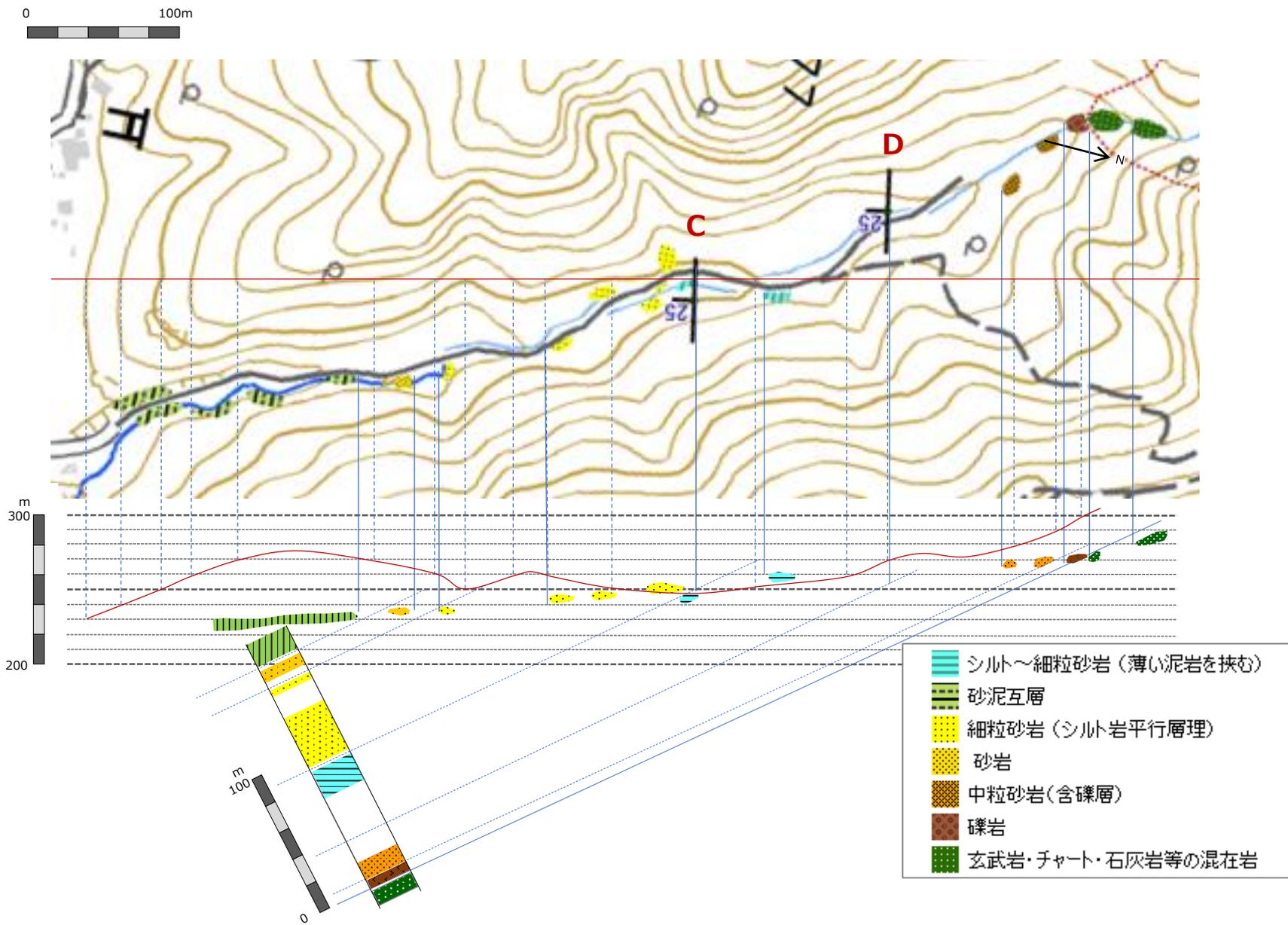
解答例



# 柱状図を作成する（１） — 西側林道沿いルート —

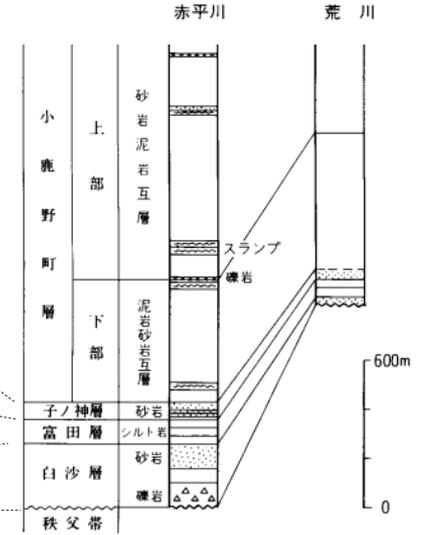
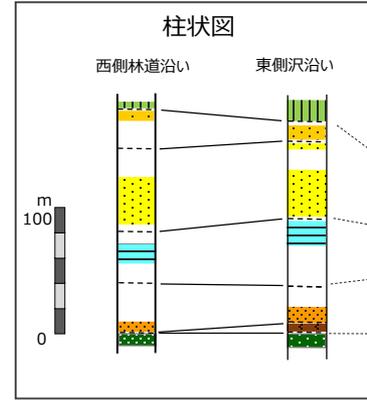
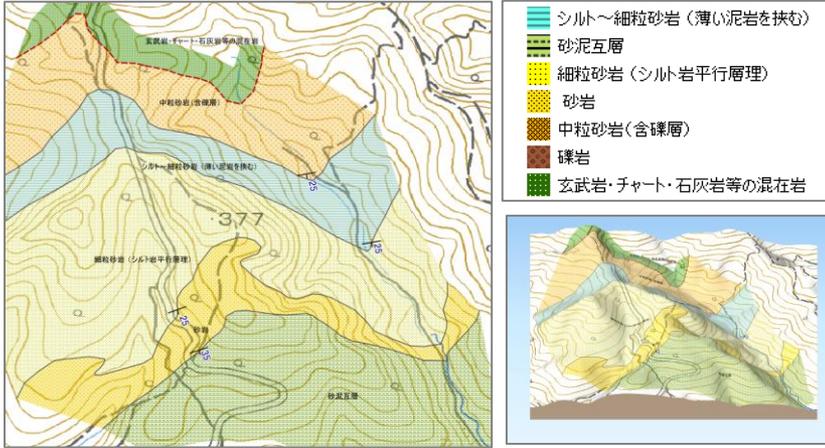


# 柱状図を作成する（２） — 東側沢沿いルート —



# 調査結果をまとめる

調査の結果、全体としては南にゆるく傾斜した単斜構造（南ほど上位の地層が重なる）であることが分かりました。この地域は、5万分の1地質図幅（地域地質研究報告 5万分の1地質図幅 東京(8)第 27号「寄居地域の地質(地質調査所)」）が刊行されているので、その内容と観察した地層を対比してみました。



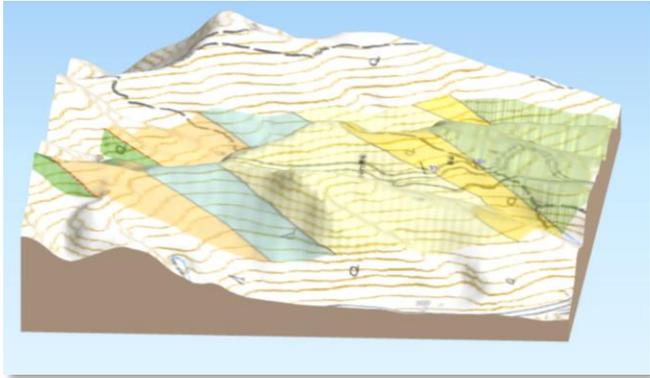
第58図 秩父盆地地層群の模式柱状図

地層名	模式地	層厚	特徴	本調査での観察状況
小鹿野町層 (下部)	秩父市富田から小鹿野町奈倉までの赤平川両岸	数100m～	泥岩砂岩互層からなり、ときに礫岩をはさむ。級化層理・ソールマークなどタービダイトに特徴的な種々の堆積構造がみられる。有孔虫、石灰質ナノ化石を産出。	層厚不明。砂泥互層で砂岩部（数cm～1mほど）は風化されずらいので露頭は凸凹している。また、級化層理が発達している。西側林道では褶曲しているのが見られる。
子ノ神層 (ねのかみそう)	秩父市富田の赤平川右岸	～170m	極細粒-細粒凝灰質砂岩。下半部は淡青灰色の極細粒砂岩で、厚さ2-5 cmの層理からなる大型の斜交層理が発達する。上半部は不明瞭な厚層理をもつ細粒-極細粒砂岩である。貝化石、サメ等の化石を産出。	層厚80～100m。平行層理が発達した砂岩が主体。上部は層理が不明瞭（塊状）の砂岩となる。
富田層	秩父市富田の赤平川右岸	約100m	白沙層を整合に覆う。青灰色のシルト岩が主体で、しばしば50cm-1m大の楕円形の石灰質団塊がみられる。貝化石、ウミガメ、サメの歯、有孔虫等の化石を産出。	層厚は40～50m。シルト岩。本ルートではあまり露出がよくなく、詳細な観察はできなかった。
白沙層 (しらすそう)	吉田町元郷	約30～100m。場所による変化が大きい。	主にアルコース質砂岩からなり、一部に礫岩をはさむ。局所的に礫岩が発達している。不整合（一部断層）で秩父帯のジュラ系を覆う。パレオパラドキシア、貝化石、有孔虫等を産出。	層厚は約40m。中粒の砂岩が主体で一部に礫岩を挟む。東側沢沿いの露頭から貝化石を発見。
秩父帯	本地域には秩父帯北帯の堆積岩コンプレックスが分布している。			玄武岩が主体の混在岩。上位の地層に不整合でおおわれている。

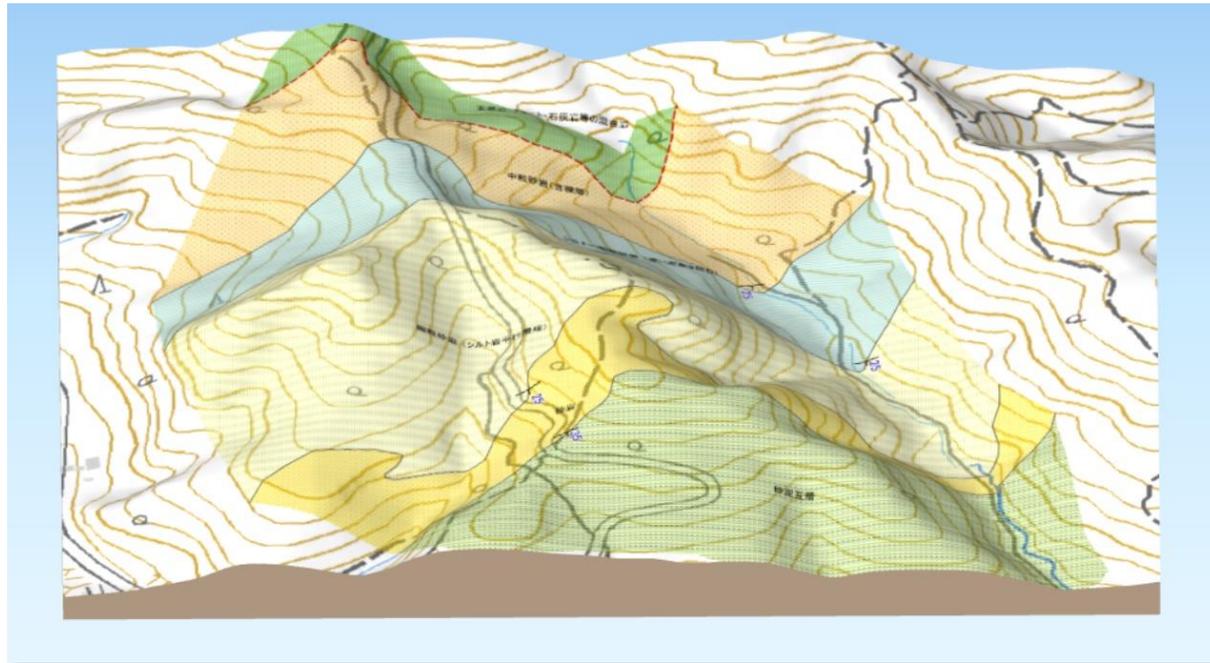
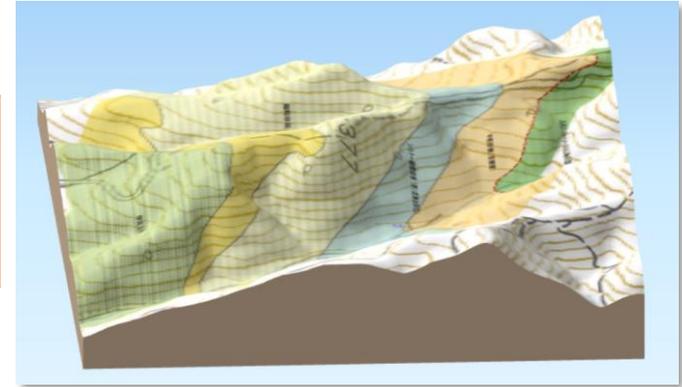
# 立体で眺めてみる

地質図は3次元の情報を表現した地図です。立体にして眺めてみることで地質構造がよくわかります。

【西側から眺める】



【東側から眺める】



【南側から眺める】